

飯伊 産業経済動向

No.452 2016/11
(28.12.25 発行)



http:// www. iidashinkin. co. jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数		前月比		前年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	3,720	枚	△	1.6 %	△	16.6 %
	金額	3,727,391	千円	△	0.9 %	△	20.6 %
うち不渡発生状況	枚数	0	枚	(前月 0 枚)		(前年同月 0 枚)	
	金額	0	千円	(前月 0 千円)		(前年同月 0 千円)	
倒産件数 (負債額1千万円以上)	県内	9	件	(前月 7 件)		(前年同月 5 件)	
	飯伊	0	件	(前月 1 件)		(前年同月 0 件)	
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(10月)		51	戸	△	34.6 %		21.4 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(10月)		1.52	倍	(前月 1.47 倍)		(前年同月 1.40 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,074	台	△	4.5 %	△	6.8 %
	中古車	538	台	△	15.1 %	△	7.2 %
軽自動車新規登録台数 (長野県自動車協会)(10月)	新車	3,800	台	△	11.4 %	△	0.4 %
	中古車	863	台		0.6 %		6.5 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	121,003	台	△	1.8 %		0.2 %
	出	121,053	台	△	2.3 %		0.5 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	90,290	台		3.5 %		1.8 %
	出	90,630	台		6.8 %		3.0 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	16,180	台	△	11.4 %	△	7.3 %
	出	16,594	台	△	11.6 %	△	4.3 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	47,257	台	△	3.7 %	△	2.4 %
	出	46,856	台	△	3.9 %	△	2.6 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		166	件		12.9 %		16.1 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		5	件	(前月 2 件)		(前年同月 20 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	25,575	人	△	8.8 %	△	2.4 %
	飯田～名古屋	17,622	人	△	5.6 %		0.3 %
	飯田～長野	9,285	人	△	9.6 %	△	6.7 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,429	人	△	1.6 %		1.1 %
	右回り	3,475	人	△	2.3 %		0.4 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (<http://www.iidashinkin.co.jp>) に全文掲載しています ◆

本誌は、当相談所が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみなさまとともに進めています。



再生紙を
使用しています

概況

製造業

11月の製造業の業況判断指数(DI)は、マイナス6.7で、前月から3.4ポイント下降。翌月予測は10.0で、前月から10.0ポイント上昇している。

電子部品やモーター制御向け基板など電気・精密機械器具の販売は、前月比横ばい～やや増加。景況感、前年比が減少していることもあって悪化との声も聞かれた。半導体、液晶製造装置向け部品の受注、販売の前月比は、業者により増減分かれるが、横ばい～増加との声が多く、一部に景況感が好転した業者も見受けられた。産業機器や医療機器等部品の受注の前月比は、一部にやや減少との声もあるが、横ばいないしはやや増加との声が多く、景況感が好転した業者も少なくない。自動車向け部品の販売は、前月比、前年比とも業者により増減分かれるが、景況感に動きは見られない。小型電磁機器の販売の前月比は、業者により増減分かれる。しかし、景況感に動きは見られない。一部に先行き弱含みとの声も。FA関連モーターでは、「受注は、産業機械向け、車載向けともにほぼ横ばいで推移」との声が寄せられた。販売額はやや増加したと言うが、景況感に変動は見られない。光学機器部品の生産は、前月比やや減少～横ばい。景況感、好転してはいないまでも、悪化には至っていない。電気、電子製品では、「新規客先からの引き合いが増えている」など景況感、好転との声も寄せられた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比、前年比は、業者により増減分かれる。総じて景況感悪化しており、「あまり良くない」「定番商品の動きが良くない」などの声も寄せられた。「11月は一番の繁忙期」にある水引製品の販売は、前年比横ばい～増加。「新規の販路に参入したためやや増加」「当月は増加しているが、4～11月の前年比では若干増という程度。それほど好況というわけではなく、前期並みの決算を予想している」などの声も寄せられた。

建設業

11月の建設業の景況DIは、プラス8.3で、前月から14.6ポイント上昇。翌月予測DIは、マイナス8.3で、前月より13.9ポイント下降している。

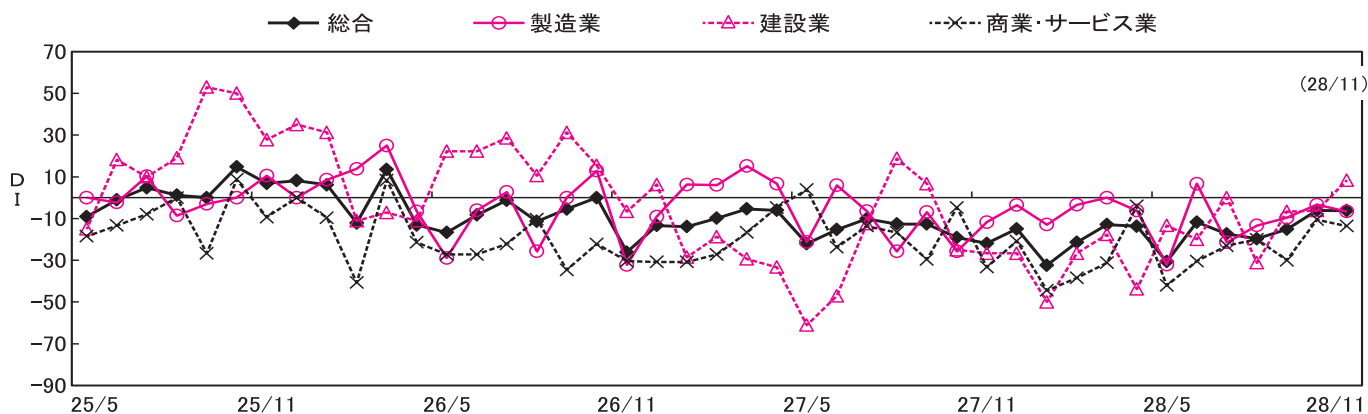
当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約15.0億円で、前月比は15%減少、前年比も25%減少している(12月15日調査時点)。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、一部にやや増加との声はあるものの、やや減少～横ばいとの声が多い。「国、県とも補正があった」「補正予算で工事が発注になってきた」当月だが、これについて、「発注件数が相変わらず少なく、受注競争は厳しいまま」などの声も寄せられた。

民需の住宅着工戸数(10月)の住宅着工戸数は51戸。前月比35%減少も、前年比は21%増加している。当月の調査先業者の受注残高の前月比は、やや減少～横ばい。「新築住宅の受注があるが、満足できるほどではない」など多くの業者で景況感の好転には至っていない。

商業・サービス業

11月の商業・サービス業の景況DIは、マイナス13.6と、前月より3.1ポイント下降。翌月予測DIも、マイナス22.7で、前月より11.6ポイント下降している。食料品の売上の前月比は、業者により増減分かれる。前年比はやや減少との声も複数寄せられ、景況感の好転には至っていない。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比横ばい。家事用品卸の売上は、前月比、前年比ともにやや増加という。家電の売上は、一部に減少の声もあるものの、前月比、前年比ともに増加との声が多い。OA機器の売上は、前月比、前年比ともやや減少との声も寄せられた。衣料品の売上は、前月比横ばい～増加。前年比は分かれる。娯楽用品の売上は、「前月、前年とも変わらず」との声。次月以降は上向きという。土産物関連の売上は、前月比やや増加。一部に前年比が減少との声も。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比5%減少、前年比も7%減少。10月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は前月比11%減少、前年比は概ね横ばい。市内料理店の売上は、前月比増加との声も多く聞かれたが、「年末に向かい例年の忙しさは感じない。同業にも景気の悪さを一段と感じる発言が多い」などの声が多い。市内ホテル、旅館の売上は、前年比減少との声も寄せられた。昼神温泉の売上は、減少～やや減少。「目玉商品のナイトツアー終了。他の企画商品はまあまあだが、宿泊客数、宿泊単価とも昨年より低い」などの声。旅行代理店の売上は、前月比横ばい。タクシーの売上は、前月比、前年比ともにやや減少との声。「自治体との提携でタクシー自体のサービスの充実ができないかを模索し、継続的なサービスの提供が必要」などの声も寄せられた。

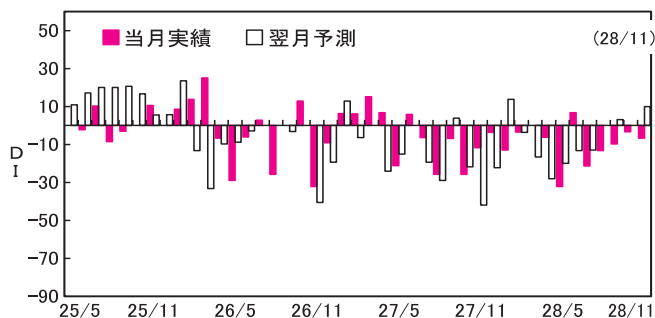
飯伊地区景況DI (本誌調査)



製造業

地区内製造業の景況判断指数

飯伊地区景況DI（製造業）



当月実績	-6.7	(前月 -3.3)
翌月予測	10.0	(前月 0.0)

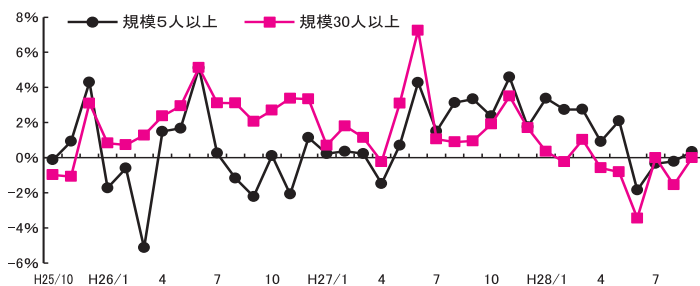
当月の製造業の業況判断指数（DI）は、マイナス6.7で、前月から3.4ポイント下降。翌月予測は10.0で、前月から10.0ポイント上昇している。

長野県の毎月勤労統計調査により、県内の平成22年平均値を基準とする賃金指数（現金給与総額 H22平均=100 調査産業計）について、前年同月比の推移を平成25年10月以降で見ると、平成28年年初くらいまで、従業員規模5人以上、30人以上ともに、概ねプラスとなっていた。平成28年に入ると、前年同月比の増加率は低下し、マイナスになる月も見られる。

また、平成26年中は従業員規模30人以上の事業所の増加率が従業員規模5人以上の事業所の増加率を上回っていたが、平成27年に入ると従業員規模5人以上の事業所の増加率が従業員規模30人以上の事業所の増加率を上回る月が増えていた。

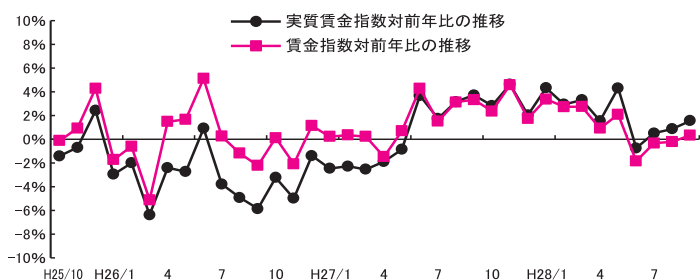
（※なお、「現金給与総額」とは、所定内給与、所定外給与の「決まって支給する給与と、賞与等の「特別に支払われた給与」を合わせたもの）

長野県の賃金指数（調査産業計 現金給与総額 H22平均=100）前年比の推移



下のグラフは、同調査により、長野県の事業所規模5人以上のすべての調査産業の「賃金指数」（現金給与総額 H22平均=100 調査産業計）と、それを長野

長野県の実質賃金指数（現金給与総額）対前年比と、賃金指数（現金給与総額）対前年比の推移
（調査産業計 事業所規模5人以上 指数 H22平均=100）



市の消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）で除した「実質賃金指数」について対前年比の推移を示したもので、平成27年の7月くらいまで実質賃金指数の対前年同月比はマイナスとなっていたが、それ以降は概ねプラスとなっている。

平成28年7、8月は、賃金指数の前年同月比はマイナスとなっていたが、実質賃金指数の前年同月比はプラスとなっていた。

機械加工製造業

電子部品やモーター制御向け基板など電気・精密機械器具の販売は、前月比横ばい～やや増加。景況感は、前年比が減少していることもあって悪化との声も聞かれた。先行きに関し、販売の増加を見込む声も聞かれたが、こうした業者でも景況感は上向いていない。原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。一部に、製品価格が今後下降していく見込みとの声も聞かれた。雇用面、設備面では現状維持との声が多い。

半導体、液晶製造装置向け部品の受注、販売の前月比は、業者により増減分かれるが、横ばい～増加との声が多く、一部に景況感が好転した業者も見受けられた。「先月に続きスマホ関連は調整中」「製造装置は堅調で量も確保」「FPD関連良好」などの声。先行きに関し、「今後は受注増」「2017年は半導体製造装置関連の動きは良好との話もある」などの声が寄せられた。「原材料下げ止まり」など、当月原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子で、先行きも大きな動きは見込まれていない。雇用面では、概ね現状維持の様子も、一部に「多少不足。若干名の増員を予定」との声も。設備面では「今後予定」「老朽設備更新」などの声も聞かれた。

産業機器や医療機器等部品の受注の前月比は、一部にやや減少との声もあるが、横ばい～増加との声も多く、景況感が好転した業者も少なくない。「工作機械向けは減」「リピート製品が減少している」「停滞のまま。親会社の方向転換で下請は大変」「一部製品は底が続いているが、ロボット向けなどでは受注増」「先月は谷間で今月は半年並みに戻った。大物の動きは良く売上増につながった」「変化なし。全般に忙しい。同業も忙しそうだ」「受注は順調。かつてない受注残で生産が追いつかない」などの声が寄せられた。「小物部品は短納期が多い」「短納期の製品が多く、いかに取り込めるかが課題」など納期に関する声が複数聞かれた。先行きも弱含みとの声はなく、「全体的に12月は動きが見えないとの声が多いが、客先の動向を聞くと、1月以降忙しくなるとの声が多くなった」などの声も聞かれた。

原材料、資材価格に当月大きな動きはなかった様子も、「ステンレスが全般的に12月から上昇」との報。製品価格は一部にやや上昇したとの声もあるが、「変わらず値引きの要請は来る」ものの、現状維持との声が多い。雇用面では、「良い人材なら」「1名不足」「外国人研修生を複数名増員」「海外労働者で微増を予定」など積極的な声も少なくない。設備面では積極的な声は多くはないが、「更新していく」「複数台予定。検討しているものもある」「予定している」「ものづくり補助金で実施中」などの声も。

自動車向け部品の販売は、前月比、前年比とも業者により増減分かれるが、景況感に動きは見られない。先行きは、弱含みとの声は聞かれず、上向きとする業

者も見受けられた。雇用面で「17時まで働くフルタイムの希望者が集まらない。15時までのパートタイマーを募集している」との声が寄せられた。

小型電磁機器の販売の前月比は、業者により増減分かれる。しかし、景況感に動きは見られない。一部に先行き弱含みとの声も。雇用面、設備面ともに概ね現状維持の様子。原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかったという。

FA関連モーターでは、「受注は、産業機械向け、車載向けともにほぼ横ばいで推移」との声が寄せられた。販売額はやや増加したと言うが、景況感に変動は見られない。先行きも大きな動きは見込まれていない様子。原材料、資材価格がやや上昇している一方、製品価格の下降が続いているといい、この傾向は続く見込みという。

光学機器部品の生産は、前月比やや減少～横ばい。「大手の半導体設備が好調に推移」「海外インフラ事業向けで調整が行われ始めた。今後受注に影響がありそう」などの声が寄せられたほか、先行きの売上増加を見込む声も寄せられ、景況感、好転してはいないまでも、悪化には至っていない。一部に、原材料、資材価格がやや上昇との声。雇用面で「新卒者複数名入社。他に月々増員を考えている」「次月増員」など積極的な声が多い。設備面では「実施中。近々完了予定」「計画あり」などの声が寄せられた。

電気、電子製品では、「新規客先からの引き合いが増えている。ハードだけでなく、システム関係の引き合いが多い。これらを組み合わせたビジネスの展開を考えていきたい」など景況感、好転との声が寄せられた。こうした業者には「パートを採用。開発要員は不足している」など雇用面でも積極的な声がある。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は前月比、前年比とも業者により増減分かれる。「特定の販路向け製品を投入したことなどから増加した」「円安で海外向けの受注が進んだ」「9、10月の反動か、やや増加」といった声はあるものの、総じて景況感、悪化しており、「あまり良くない」「定番商品の動きが良くない」「一般スーパーの特売の数量が減っている」などの声が寄せられた。先行き大きな動きは見込んでいないとの声が多いが、一部に増加を見込む声も。当月、原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。雇用面では総じて現状維持。設備面では、「実施中」「確実にやっていきたい」などの声がある。

「11月は一番の繁忙期」にある**水引製品**の販売は、前年比横ばい～増加。「新規の販路に参入したためやや増加」「当月は増加しているが、4～11月の前年比では若干増という程度。それほど好況というわけではなく、前期並みの決算を予想している」「昨年並みで推移」などの声が寄せられた。製品の納品時期が早まっている様子で、「年末商品の11月納品が増えた」「クリスマス後に飾り付けるのに、12月初めから販売するため、早めの材料確保が大変」「11月納品が当たり前になってきた一方、特に大手業者からは1月に売れ残りが返品される。余分な商品まで作らなければならない、競争激化の中、利益が心配」などの声が寄せられた。こうしたこともあって、「海外からの納品が早まっている」「海外からの入荷が11月に集中している」という。原材料、資材価格は、横ばいとの声が多いが、一部に前年に比べ下降との声も。製品価格に大きな動きはなかった様子。「今後そう遠くない時期に、地域生産者の高齢化に伴って技術の継承が難しくなってくる

のでは。地域製品を製造、納品できるかどうかが大手際物業者の分岐点になるのではないか」との声が寄せられた。

その他製造業

食品関連包材の生産は前月比やや増加、先行きに大きな動きは見込んでいないとの声が寄せられた。当月、原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。

印刷、出版関連の売上は、前月比減少も、前年比はやや増加、「11月中の年賀はがき、喪中はがきの売上は、件数、金額とも前年に比べ遅れている感。12月中にどこまで挽回できるかが問題」との声が寄せられた。この時期「各行政機関から次年度予算用の見積もり依頼が多い」というが、これに関し「落札値が公開されている製品では、奪い合いから年々値下がりしているなど、安値競争が相変わらず続いている」との報。雇用面で「希望通りの人材がなかなかおらず、継続して募集」との声。設備面では「当分現状維持」との声が聞かれた。

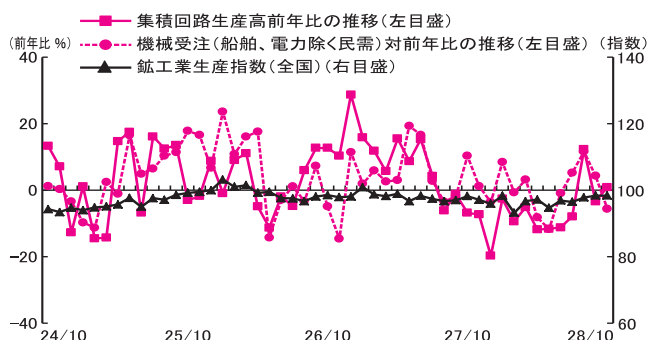
衣料品の売上は、前月比、前年比とも減少との声。「春物の生産ができない」「例年端境期で量が見込めない時期だが、それにも増して受注量が少ない。アパレル業界全体が作り控えをしている様子。但し、メンズ製品の動きは悪くない」「全体的に例年より大きく受注が減少している様子で、同業にも苦戦しているとの声は多い」など景況感、悪化しているという。先行きも弱含みとの声。当月、原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。雇用面の不足感が続いている様子で、「実習生が戦力になってくる」という。設備面では、先行き積極的な声も寄せられた。

住宅機器、オフィス家具や店舗用什器などの家具の販売は、前月比増加も前年比減少。景況感、好転までには至らないものの、「11月半ばから多少動き出した」との声が聞かれるようになったなどの声が寄せられた。当月、原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。

【企業からのコメント】

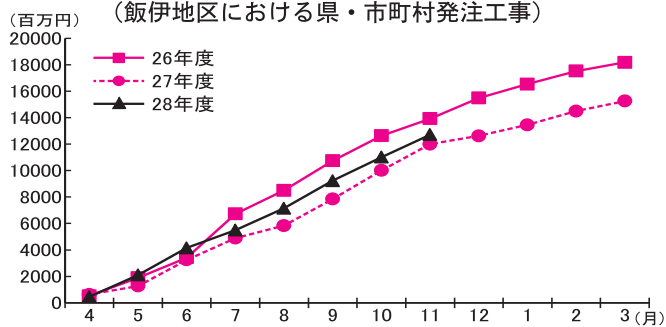
- ★ブログ、SNSといったネット発信では、内容によっては他社等に迷惑をかけることもある。時代の変化に伴い、業界全体としても認識を共にすることも必要と思う。
- ★自動車の次世代技術では、プラグインを含むハイブリッド、水素燃料電池、新型燃料電池、電気自動車、長期的な技術として自動運転技術など日本が先端を行っている。排ガス不正問題でこれらの技術の優位性が高まっていると思う。
- ★株価の上昇に伴い明るい話題が増した。

集積回路、機械受注・鉱工業生産指数の推移



入札額累計の推移

(飯伊地区における県・市町村発注工事)



(資料：新新聞入札結果欄より抜粋)

当月景況DI 8.3 (先月 -6.3)

翌月予測DI -8.3 (先月 5.6)

官公需

当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約15.0億円で、前月比は15%減少、前年比も25%減少している(12月15日調査時点)。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、一部にやや増加との声はあるものの、やや減少～横ばいとの声が多く、景況感も、「発注量は例年になく少ない」など悪化した業者が見受けられたほか、「公共、民間合わせて何とか動いている」「少し仕事は出ているようだが、もちろん十分ではない」「土木は忙しく見えるが、仕事が少ないという声もけっこうある」など横ばいとの声が多い。

「国、県とも補正があった」「補正予算で工事が発注になってきた」当月、これに関して、「発注件数が相変わらず少なく、受注競争は厳しいまま」「いくらか発注になったという感。東日本大震災、熊本地震、オリンピック関連工事などの影響もあってか、長野県に予算が回っていないのではないかと。人手不足、資材不足といった状況には至っておらず、忙しいとは感じられない。受注競争も厳しい」などの声が寄せられた。

一方、「リニア関連工事を受注した業者は忙しそう」などの声も。

こうした中、「国の入札工事も、工事実績等による総合評価だけでは受注業者が偏る傾向があるため、少しずつ制度を変えてきている。他の官庁にどう影響していくのか様子見」との声が寄せられた。

先行きに関し、「12月の補正予算に期待大」などの声の他、「今のところ動きはないが、リニアなどの関連工事、補正予算など今後は忙しくなるのではないかと。人材や資材、機材の不足も予想される」などの声。

民需

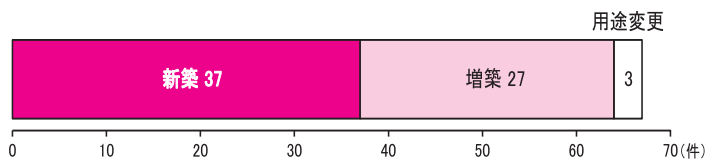
当地区の10月の住宅着工戸数は51戸。前月比35%減少も、前年比は21%増加している。

当月の調査先業者の受注残高の前月比は、やや減少～横ばい。「新築住宅の受注があるが、満足できるほどではない」「公共、一般とも建築は営繕的なものが多く、まとまったものがない」「年末ということもあって工事が完成してくれば受注残高は当然減るが、完成物件も少なくて工事高が上がっていない」「住宅新築工事はない。神社や住宅改修工事のみ」など多くの業者で景況感の好転には至っていない。

雇用面で過剰感を指摘する声が聞かれた一方、「人員不足は課題」との声も。また、「民間建築は動きがあるようで、大工さんは忙しい」「内装工事など一部の職人さんは忙しいらしい。年末ということもあるが、当地区では大型工事が出ているということもあるだろう」などの声が聞かれた。資材価格や工事単価に大きな動きはなかった様子。

飯伊地区の住宅以外の建築種別建築確認申請件数

(長野県下伊那地方事務所 4月1日以降受付分(11月21日現在))



(長野県下伊那地方事務所の集計を基に本誌調査による概数)

平成28年4月1日以降に長野県下伊那地方事務所(指定確認検査機関分を含む)が受け付けた、用途を把握できる住宅、集合住宅以外の建築確認申請件数67件(11月21日現在 本誌調査による概数)を建築種別に見ると、新築が37件、増築27件、用途変更3件となっている。これらの用途別の内訳を「2016年の飯伊地区各種統計から」に掲載したので併せてご覧下さい。

建設資材

建材、塗料等の売上は、前月比、前年比とも業者により増減分かれる。景況感はずしも好転しておらず、「今のところ大変忙しいが、年末を控えた時期的な要素もあるように思う。メーカー商社などに聞いても景況は必ずしも良いとは言えないとのこと」などの声が寄せられた。当月、原材料、資材価格や販売価格に大きな動きはなかった様子。

鋼材の売上は、前月比やや減少、「特に月後半悪化。客先に好調な業種が見られない。都市部は建築物件が出ているようだが、地方の状況は悪いまま。当分の間需要の回復は望めないのではないか」などの声。「鋼材相場は、基本的には横ばいだが、都市部の建築物件が出ていることと、メーカーの値上姿勢があってH形鋼などでは値戻しが予想される」という。

生コンの売上は、前月比、前年比とも、一部に減少との声も聞かれたが、増加との声が多い。「まずまずの出荷量。三遠南信自動車道関連は終了したが、堰堤工事が始まり順調に打設」「公共土木工事の砂防、堰堤工事が先月に引き続きあった。また、三遠南信自動車道のコンクリート舗装、民間建築工事の出荷も重なり予想以上の出荷」など景況感も好転した業者が多い。先行きは、増加を見込む声の一方、「新たな大型の工事が今のところない」など弱含みとの声もある。

骨材等の売上も、前月比、前年比ともやや増加。「生コン向け出荷が多かった」「前年割れが続いていたが、三遠南信自動車道や道路舗装関連が動き10、11月は恵みの月」などの声。先行きは「取引先には年明けの予定があまりないとの反応が多い。生コン会社の見通しも弱い。三遠南信自動車道等の物件の話題や予定があるが、始まるまで間が空きそう」などの声。

【企業からのコメント】

- ★地元業者は大手の下請けに徹しているが、定年などによる人手不足で雇用面に不安がありそう。
- ★現状は弱く、過去最低の水準。一方、リニア関連が少しずつ具体的になってきているほか周りには期待する物件もあり、今後忙しくなることは分かっているが、なかなか増産体制に入れない。

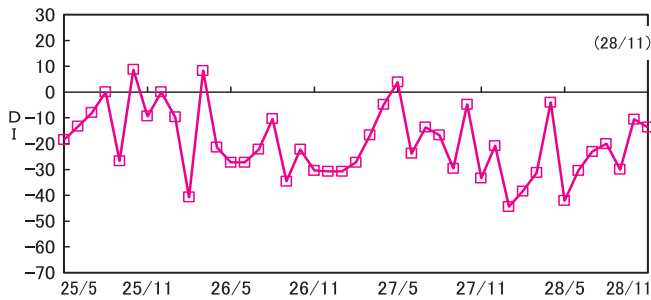
住宅建築確認申請受付状況(※本誌調査による概数)

11月	○下伊那地方事務所分
	新築 12件 (前年 4件)
	増築 1件 (前年 3件)
	○飯田市役所分
	新築 20件 (前年 18件)
	増築 1件 (前年 1件)

※指定確認検査機関分を含む

商業・サービス業

商業・サービス業DI



当月景況DI	-13.6	(先月 -10.5)
翌月予測DI	-22.7	(先月 -11.1)

商業

食品の売上の前月比は、業者により増減分かれる。「昨年より日曜日の回数が少なく売上減少」など前年比はやや減少との声が複数寄せられ、景況感の好転には至っていない。「依然として野菜の価格は高いまま」との報。雇用面で「年末年始のアルバイトを増員して対応」との声が寄せられた。

【青果卸売市場】

売上は前月比減少、前年比は増加。「10月は松茸の単価が高かった」「平年に比べると野菜・果実ともに気候不良による価格高」という。

野菜は、「前月に続き9月の長雨と台風による天候不良のため、全ての品目で品薄による大幅な高値となった。入荷量は前年比15%減で価格は56%高。しばらく高値は続きそう」という。

果実は、「主力品目のふじは入荷量23%減で価格31%高、みかんは12%減の価格27%高、柿は12%減の価格6%高と野菜同様に不作による高値。これから期待の干し柿は、今年は順調な見込み」との声。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比横ばい。先行きに関する景況感の好転には至らないものの、売上は年末に向けやや増加を見込んでいるという。

家事用品卸の売上は、前月比、前年比ともにやや増加という。仕入に関し「紙類の値上げはまだないが、昨年よりは上昇している」との声が寄せられた。また「補助金を活用した設備の入れ替えを行ったが、経費や手間もずいぶんかかった」との声も。

家電の売上は、一部に減少との声もあるものの、前月比、前年比ともに増加との声が多い。「暖房に強いタイプのエアコン受注が多くなっている」「暖房関連の商品は例年並みの売上。温水ルームヒーターはメーカー側の生産減により品薄状態が続く」「家電品は量販店、ネット販売に押され低迷が続いている」等の声。また、「電設資材はLED照明、太陽光発電の増設があり伸びた」「太陽光発電複数あり。リフォーム全般に力を入れたい」などの声が寄せられた。雇用面で「通常は何とか対応できるが、取り付け工事が入っているときには不足」との声が寄せられた。

OA機器の売上は、前月比、前年比ともやや減少。「年末に向けて、マイナンバーの保管関連商品の需要を取り込みたいが、需要がどの程度か分からない」との声が寄せられた。「技術担当社員の定年を控え、新戦力育成のため人員の補充、あわせて年度末需要期の人員確保を進める」との声。

衣料品の売上は、前月比横ばい～増加。前年比は分かかれ、「去年は店舗改装セールがあったこともあって前年比やや減少」「製造業のお客様の新規・特需で増加したが、特段変わりなし」などの声。今後も大きな動きは見込まれていない様子。

娯楽用品の売上は、「前月、前年とも変わらず」との声。次月以降は上向きという。

土産物関連の売上は、前月比やや増加。一部に前年比が減少しており、「当社所在地域の同業は、8月か

ら来客数、売上共に下降傾向」との声も。仕入単価は「一部納入品についてやや上昇」という。

松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比5%減少、前年比も7%減少。中古車は、前月15%減少、前年比も7%減少。10月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は前月比11%減少、前年比は概ね横ばい。中古車は前月比1%増加、前年比も7%増加した。

サービス業

市内料理店の売上は、「例年11月は売上のある月で期待している部分もあった。忙しさはさほど感じなかったものの、数字で見ると集客は割にできたと感じる」「組合の山行や法事が多く入った」等、前月比増加の声が多い。もっとも、景況感は、「12月の忘年会の予約が目下は少ない。景気は良くないと思う」「年末に向かい例年の忙しさは感じない。同業にも景気の悪さを一段と感じる発言が多い」「来月の予約状況は忙しい日と暇な日の差がかなりあり、シフトに苦労する」などの声が多い。「生鮮品の仕入が上がっているが、販売単価は上げられない」との声が聞かれた。

市内ホテル、旅館の売上は、前年比減少との声が寄せられた。設備面で「小規模実施。今後も小規模にて実施予定」との声。

昼神温泉の売上は、減少～やや減少。「目玉商品のナイトツアー終了。他の企画商品はまあまあだが、宿泊客数、宿泊単価とも昨年より低い」「例年10、11月はシーズンで稼働もピークだったが、ここ数年減少。客層が大きく変わったが、星空のない時期もあって経営が安定しない。特に今年は悪い」「紅葉狩りツアーなども少なかった」「大規模施設と小規模施設では星空効果に差があるのでは」などの声。「12月からのプロジェクトマッピングに対する期待は大きい」という。

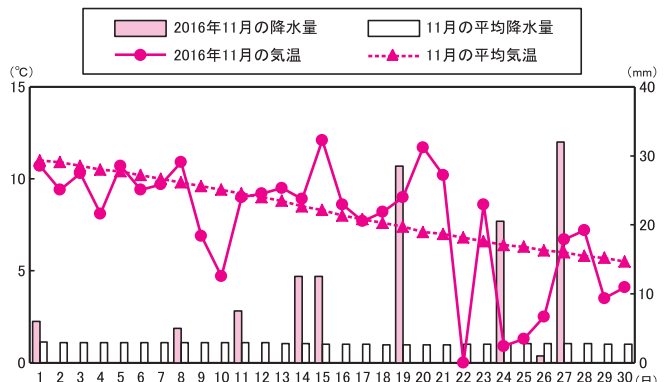
旅行代理店の売上は、前月比横ばい。「秋の観光シーズンで10月に次いで売上・取扱件数は伸びたものの収益性は相変わらず低い」という。「1月以降の国内旅行オフシーズンに向けた対策も必要」「バス旅行など安全確保に向けた業法遵守や自己点検などを継続的に行った」等の声。

タクシーの売上は、前月比、前年比ともやや減少との声。「夜間のお客様の需要が戻らなければ売上は上向いてこない」「12月の繁忙期の動向で今後が分かってくるのでは」などの声。「自治体との提携でタクシー自体のサービスの充実ができないかを模索し、継続的なサービスの提供が必要。また業界として今後の労働力確保も考えていかなければならない」との声が寄せられた。

【企業からのコメント】

- ★今後冬物の商戦に期待したいところ。
- ★天皇陛下のご来村は大きな話題性があった。

飯田の気温と降水量



補助金公募申請のポイント

飯田信用金庫 経営相談所

中小企業支援アドバイザー 佐々木信高

「平成28年度 第2次補正予算 革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金（通称 ものづくり補助金）」と「平成28年度 第2次補正予算 小規模事業者持続化補助金」の公募申請がダブルで始まりました。中小企業支援の補助金として人気が高く回数を重ねる度に採択率が低くなってきています。

補助金額500万円から3,000万円を通常の経営で稼ぎ出すには何億円もの売上げを上げなければならない企業にとって、「ものづくり補助金」はうまい話であるのは間違いありません。

社長にとって、自社の考え方を公募申請書類に表現することは、常日頃、書き慣れていないこともあり大変苦労するところですが、採択の有無にかかわらず挑戦した企業の社長さんたちは、「会社を見つめ直す良い機会となった」とおっしゃっていますので、積極的に挑戦してみたいかがでしょうか。

ここ3、4年、国は中小零細企業に対して多くの補助金を公募しています。補助金の目的や要件の違いはありますが、基本的に共通する申請のポイントがあります。

昨年に引き続き、「ものづくり補助金」を中心に、そのポイントをまとめてみました。参考にしてください。

〈申請書全体のポイント〉

1. 補助金の目的を良く理解する。

補助金の公募が始まると、受け入れ事務局の説明会が開催されます。内容は、補助金の目的、対象要件、提出期限、提出書類等の公募要領に沿った形式的な説明になりますが、過去の事例（不備例や失敗例）等の話もあるので積極的に参加する必要があります。

特に、「補助金の目的」はよく理解しておく必要があります。国が何のために補助金を交付するのか理解していないと、公募申請書の中身までチグハグになってしまいます。

2. 申請者は誰か？

もちろん、法人であれば代表者、個人であれば事業主です。申請書の記入を専務、総務部長、工場長等がする場合がありますが、会社の将来展望が書ききれない申請書があります。申請書の記入を社長から任された場合に、革新的なアイデアや技術は記述されていますが、それを儲けに結び付けていく将来展望が全体的に薄い気がします。

国は、あなたの会社の技術やアイデアに補助金を出して将来会社がしっかり儲けてもらうことを願っています。ぜひ、この部分は、最終的に申請書記入者とトップとは意思疎通をしておく必要があります。

3. ものづくり補助金は革新性を求められている。

「ものづくり補助金」で求められているのは、「革新的なサービス開発・革新的な試作品開発・革新的な生産プロセスの改善であり、どのように他社と差別化し、競争力を強化するか？」です。それを表すように、公募要領には、「革新性」「創造性」「独自性」「新規性」などの言葉が多く使われています。申請書にこの部分が欠けていると、単に性能の良い機械や備品の購入（汎用性、効率性、生産性が上がるだけ）に終わってしまいます。全国の同業他社も同じことを考えていますから、機械への投資だけでは採択はまず無理でしょう。つまり、機械や備品を購入して、「革新性」「創造性」「独自性」「新規性」を産み出す道筋を表現する必要があります。「何を設備投資するのか」でなく、「どんなことを実現するために、この設備が必要なのか」という流れが必要です。

申請書は、自社の市場、強み、課題、将来像等を記述します。「ものづくり補助金」なら、「自社の市場」を分析することによって、その設備やサービス・試作品のどこが「革新的」なのか明らかになるでしょう。自社の市場や強み、課題、将来像などを分析する過程が必須です。中には、「この計画は、革新的アイデアや技術である」と自己満足している申請書がありますが、当社比で見るとでなく、あくまで、革新性があるかないかは審査員が決めます。

4. 審査員は二つの視点から見ている。

*視点1 — 行おうとしている事業計画の技術やアイデアといった点（申請書その1部分）

*視点2 — 行おうとしている事業計画のビジネスとしての実現性といった点（申請書その2部分）

上記2点が大きなポイントになると思われます。ポイント3でも記述しましたが、視点1の記述は割合と書かれているものが多いのですが、視点2は、記述が少ない申請書が少なくありません。国民の税金を投入して企業が売上増や利益増に繋がるかどうか、雇用増大が見込まれるかどうか、更に会社が儲けて、将来、法人税や所得税で返してもらえるかどうかを判定する部分です。この企業の事業計画に、補助金を投入する価値があるかどうかという大事な記述です。

5. 審査員（読み手）に理解できるよう記述する。

審査員はあなたの会社や業界を知りません。数ページの申請書の文書だけであなたの会社や事業計画を理解するわけですから丁寧な記述が必要です。

- 例 1. 図、写真、グラフ等を利用する。
2. 専門用語・業界用語には説明や注釈を記述する

6. 抽象的あるいは曖昧な字句や飾り文句は使わず具体的に記述する。

- 例 1. 「様々な分野」「多様なユーザー」「老若男女」－ ターゲットが絞りきれていない。
2. 「真心をこめたサービス」－ 具体的にどうするの？
「こだわりの品質」－ どうこだわるの？
「最先端の技術で」－ どんな技術で、どこがいいの？
「選りすぐりの素材」－ どんな基準で選び、どんな素材なの？

7. 起承転結、ストーリー性、一貫性ある記述をする。

申請書は項目ごとに単発で記入するのではなく、全体にストーリー性（起承転結）を持たせ、巻頭と巻末で内容がチグハグにならないよう一貫性を持たせることが必要です。

申請書の中には、いきなり転（転回）から始まる文書がありますが、前段が不明だと何故転回したかもわかりません。流れるような文書とまで行かなくてもストーリー性を持った記述を心がけましょう。

8. 読みやすい申請書になっているか、従業員や家族に読んでもらう。

9. 補助金の公募期間中は、商工会議所、商工会、当金庫経営相談所の「セミナー」や「個別相談会」が開催されます。積極的に参加して、多くの方の意見を聞きましょう。「ああ、そうなんだ」ということがあるはずです。

10. とにかく早く取り掛かり、早く提出することが肝心です。早く完成させて余裕をつくり、もう一度申請書を読み直すことが重要です。

公募中の中小企業者向け補助金

〈平成28年度 第2次補正予算 革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金〉

企業が国内外のニーズに対応したサービスやものづくりの新事業を創出するために、認定支援機関と連携して革新的なサービス開発・試作品開発・生産プロセスの改善を行う中小企業・小規模事業者の設備投資等を支援します。

申請書締め切り

平成29年1月17日（火）まで

申請書提出先

（長野県地域事務局）長野県中小企業団体中央会

〈平成28年度 第2次補正予算 小規模事業者持続化補助金〉

小規模事業者が、商工会議所・商工会の助言等を受けて経営計画を作成し、その計画に沿って地道な販路開拓等に取り組む費用の2/3を補助します。

申請書締め切り

平成29年1月27日（金）まで

申請書提出先

地域内の商工会議所・商工会

お問い合わせは、飯田信用金庫の各支店および経営相談所（電話 0265-53-5811）まで。

斜視 (ナメ) 力のすすめ (31)

しんきん南信州地域研究所
主席研究員 井上 弘司

元旦の朝、一年中健康であることを祈念して固い食物を食べる「歯固め」は地方により異なります。この「歯固め」の風習は、平安時代に中国の風習が宮中に伝わり、それが一般庶民まで拡散して日本の文化になっていったのですが、その過程は七夕や雛祭りと同様ですね。昔から年末に掛けて市田柿が売れたのもこの風習からです。干し柿の他にも豆や栗、スルメ、大根、昆布など全国各地でいろいろな食材が使用されますが、今ではほとんどなくなった「獣肉」を食べる地域もあったとのこと。昨今は獣害から鹿や猪のジビエ料理として食べることが盛んになってきましたから、正月はジビエで「歯固め」も良いかもしれません。

さて今回はそうした食の風習を活かした食と観光の話を取り上げたいと思います。

■天災のセーフティー・ネット「津留め」

大河ドラマ「真田丸」が終わり、来年は「女城主直虎」です。2017年も信州と縁が深い大河になりますね。どちらも徳川家康が登場しますが、江戸時代は215年間に及ぶ鎖国で諸外国からの輸入に頼らない自立社会を形成しており、食糧自給の点で捉えればとんでもない国力を有していたとも言えます。

とは言うものの、この時代は寒冷な時代の上に異常気象も多く、江戸三大飢饉(享保・天明・天保)のほかにも元禄・宝暦・延宝・天和など東北を中心に飢饉が発生しました。まさに近年の異常気象と重なります。

こうした飢饉を教訓に徳川吉宗の「甘藷」奨励や、二宮尊徳をはじめ様々な農政家が各地で「備荒」を唱え、飢餓対策を講じました。また飢饉の影響を受けなかった諸藩では、自分の領地で米不足とならないよう、港や関所で物資の移出入を禁止あるいは制限する「津留め(つどめ)」を行いました。この津留めは自領で暴動を起こさず安全安泰を優先する最大のセーフティー・ネットだったのです。しかし、このために大消費地の江戸や大坂では飢饉の度に米騒動が勃発しました。大塩平八郎の乱なども津留めが要因と言われますが、最近発掘された新資料によると幕府の腐敗体制を糺すためだったともいいます。

さて、異常気象や地震が頻発するこの頃、飯田下伊那ではリンゴが大不作となりました。TPPは雲行きが怪しいとはいえ、我が地域の産業全般のセーフティー・ネットを作り、豊かで暮らし易い「ふるさと」を守らないといけませんね。

■ガストロノミー・ツーリズム

第2期観光成熟期と言われた高度経済成長期の団体旅行では、どこに行っても同じような会席料理が並び(今でもある)、どこでも飲めるメーカーのビールで乾杯していました。平成に入るとバスを連ねた団体旅行というマストツーリズムから小グループや家族単位に大きくニーズが変化し、国内の著名観光地は空洞化・衰退していきました。

特に大きなニーズの変化は阪神淡路大震災以降に見られます。健康や食の安全・安心、地域の豊かな文化や景観、生活風土を守り、生活をしている場が、若者や女性に新たな社会の価値観として再認識され出したのです。

今欧米では食をテーマとした観光(ガストロノミー・ツーリズム)に注目が集まっています。「ガストロノミー」が意味するところは生産地の風土から食文化と幅広く、大きくは下記の3点を構成要素としています。

1. 地域の食とその関連産業からなる総体的な体系で、経済、文化、社会的要素を含んだ地域のシステム
2. ガストロノミーの形成には、多様なパートナーやネットワークが必要であり、地場産業や事業所が結合することにより強力な地域の原動力となる
3. ガストロノミーは、ヘリテージ(ここでは食遺産を指す)を再開発し、維持し、促進する力となる

2016年9月に開催された「ツーリズム EXPO ジャパン フォーラム2016」で、国連世界観光機関のヨランダ・ベルドモ氏は、「ガストロノミー・ツーリズムは本物志向であり、リピート化や秘境ニーズの高まり、旅のストーリー性、ロイヤリティ重視といった旅行者の志向や社会の変化に合致している」と述べ、成功事例としてスペインのバスク地方やワイン発祥の地という歴史を活かしたジョージア(グルジア)のワインツーリズムを紹介。日本は各地に様々な魅力があり「新たなインフラ整備でなく、小さな村でもうまく仕込めば売れる。そのためには、地域の食文化や食事の保全、地元に対する誇りが重要で、リーダーやルールなどのガバナンスモデルの確立が求められる」ことを提示しました。

この時、これは私が20年来提唱していた「風土(フード)ツーリズム」そのものではないかと感じました。

■ところ変われば品変わる

概念としてのガストロノミー・ツーリズムやフードツーリズムは平成に入って出てきましたが、昨今のインバウンドや地方創生事業で脚光を浴びつつあります。元来、旅での食事は、プライベートでもビジネスでも旅行者のほとんどが楽しみにしているものです。皆さんも「〇〇に行ったら、〇〇を食べたい、地酒を飲みたい」という願望をお持ちだと思います。

地域ならではの美味しい料理や新鮮な素材が食せるなら、旅の目的として成立するのは当然なわけです。極端な話でしょうが、蕎麦一杯を食べるために車で数百キロを移動するのは当たり前になっている実態さえありますし、山形の奥田シェフの『アルケッチャーノ』には全国からお客さんが押し寄せます。このケースはシェフ自身がブランドとなった特別な事例です。

2016年3月末に北海道新幹線の木古内駅前に開店した『道の駅きこない』は、さして豊富な特産品や土産が置いてある訳でもなく、観光客がそこで降りてどこかの観光地に向かうというわけでもありませんが、奥田シェフ監修のレストラン「どうなんdes」を核に、小さなパン屋さんやコロケ屋さんが評判となり、半年で40万人の来場者がありました。まさに食が観光ニーズを生み出した事例でしょう。

ガストロノミーは生産地の食文化や風土が重要な要素です。

例えば「うどん県」を標榜する香川県内でも、観音寺市では瀬戸内海の「いりこ漁」が盛んで、出汁のベースは「いりこ」です。ところが、高松市に行くと「鰹出汁」がベースになります。つまり地域ごとにうどんの出汁から違うわけです。



↑ 観音寺うどん

↓ 芋川うどん



↑ 京都一本うどん

全国には「ご当地うどん」が数多くあります。小麦粉を使用する点では同じでも、各県で開発した小麦の違いも相まって、香りや麺の太さ、硬さ、形が違います。江戸時代から続く「一本うどん」(京都・東京・埼玉に老舗が残る)など不思議な感覚ですし、昔からお伊勢参りの旅人に食された「伊勢うどん」などは、御師の歓待で飲み疲れた体に優しいうどんです。

江戸時代初期からメジャーな「芋川うどん」(愛知県刈谷市今川町)は平打ち麺のルーツとも言われ、現在の「きしめん」や甲府の「ほうとう」、関東地方の「ひもかわうどん」と伝播し、日常食に定着する中で各地方独特のものになっていきました。

余談ですが、「きしめん」には、愛知県知立市で殿様に雉の肉を入れたうどん(雉麺)を献上したことを発祥とする説があります。食べ物のルーツは謎に包まれているケースもあります。よく見かける「元祖・本家」争いなども同様でしょう。

前述の観音寺市には早朝から店を開ける「モーニングうどん」がありますが、各地に「朝ラーメン」とか「朝カレー」など地域生活の実情に合わせた食文化もあります。「特産品とか伝統料理でないと客を呼べない」というのは、地元が価値を理解していない証拠です。

このように「所変われば品変わる」のが、地域における食の醍醐味であり、地域観光の核となるのです。

■世界から注目される日本の食や食文化

インバウンドで日本を訪れる外国人が2,000万人を突破しました。観光庁「平成26年訪日外国人消費動向調査2015年」によれば、訪日外国人が期待することの第1位は日本の食(76.2%)で、外国人が好きな料理の第1位にも日本料理(66.3%)が挙げられています。

国内旅行者のみならず訪日外国人が期待する食の素材と文化を両方有しているのが地域です。そこに巨大なテーマパークや世界遺産が存在していなくても十分に観光客に訴求する資源を持っているのです。

ここに着目した山形県鶴岡市では、産学官民が連携した「鶴岡食文化推進協議会」を設置し、「鶴岡ふうどガイド」や「鶴岡のれん」「庄内酒まつり」などの取組と国内外へのプロモーションを展開して観光客誘致を進め、食関連産業や新ビジネスの創出を行っています。

中でも、在来作物や山菜のレシピ集の発行やオール鶴岡産の学校給食、地元料理人による子どもの食育授業を行うほか、市民の食育を通じた健康づくりに農林水産現場の理解の促進、更には郷土愛を育む活動を展開したことで、国内では初の「ユネスコ創造都市ネットワーク・食文化分野」への加盟が認められました。

観光を基軸とした地方創生が盛んですが、地域の食を活用した一過性のブームとならない地域ブランドの構築のためには、地域住民が日常生活そのものを磨くことが一番でしょう。

■食の歴史文化から地域ストーリーをつくる

永平寺などに行かれた方はご存じだと思いますが、仏教に食作法の教えとして『五観の偈（ごかんのげ）』があります。各宗派によりそれぞれの作法や解釈に違いはありますが、曹洞宗開祖の道元禅師（1200-1253）が記した『赴粥飯法』（ふしゅくはんぼう）と食事の一切を司る典座の心得と食事の調べ方を説いた『典座教訓』により、広く知られるようになりました。

昨今、節分の日に恵方巻きを丸かじりする行事が広がっています。元々、これは大阪の花街で、縁起を担いで海苔巻きを恵方に向かって啜った、ある意味卑猥な遊びだったのです。そもそも海苔は徳川家康が食べることを奨励したもので、世界では馴染みがなく外国人は黒い変なモノ、と嫌う傾向がありました。最近では世界遺産に和食が登録されたので、若干理解する外国人も出ています。

事程左様に、日本食は各地の風土に溶け込みながら、多種多彩に花開いた大切な文化です。それは全ての神仏を受け入れてきた寛容な日本人そのものと言って過言ではありません。その地で産出される農林海産物や暮らしの風土の中でアレンジされ、さらに目新しいものを取り込んで現在の食があると言えます。

ガストロノミー・ツーリズム（風土ツーリズム）は、そうした地域の歴史風土と食物素材を地域それぞれで料理として提供する旅です。そこには生産者や料理をする人、食べる場が存在しており、ツーリズムにおける資源となっているわけです。

沢と谷の使い分けは住民の山あいの土地に対する接し方によって変わる、と武光誠氏は論じています。川沿いの奥地に登り獲物を取ることを楽しんだ住民は「沢」と呼び、危険で役に立たない土地とみた住民は「谷」の語を用いるとのこと。地が少なく険しい山間部が多い長野県の先人は、多くの地名に「沢」と付け、谷間を拓き作物を育て山や谷からの恵みを得てきました。奥地の沢筋さえ資源と考えていたのでしょうか。

さて自分たちで伊那谷と呼ぶ我々は、本当に沢を資源として捉えているのでしょうか。

執筆者 井上弘司（いのうえ ひろし）：1952年飯田市生まれ。飯田市エコツーリズム推進室長、産業経済部企画幹、企画部企画幹を経て2009年3月退職。現CRC地域再生診療所所長、NPO法人しんきん南信州地域研究所主席研究員。観光カリスマ百選（国土交通省）、地域活性化伝道師（内閣府）、地域力創造アドバイザー（総務省）、地域再生マネージャー（ふるさと財団）。

「NPO法人 しんきん南信州地域研究所」は、地域の情勢分析や政策提言、情報発信などを目指して、飯田信用金庫を主体として設立された地域シンクタンクです。地域の皆様の交流の場としても広く解放しております。お気軽にお立ち寄り下さい。

■所在地 長野県飯田市知久町1-9 まちカンビル2002
■在籍研究員 井上 弘司 安藤 隆一
■TEL 0265-59-7701
■FAX 0265-59-7701
■E-mail think-t@mis.janis.or.jp

2016年の飯伊地区各種統計から

長野県鉱工業生産指数

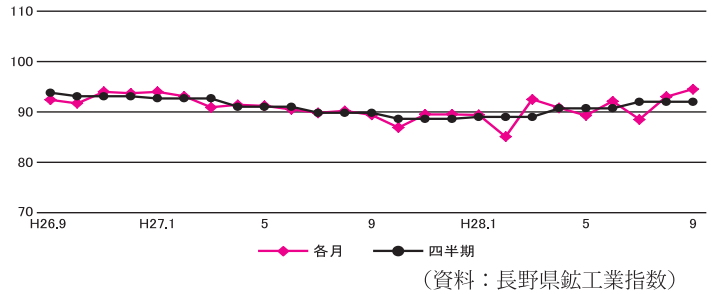
9月までの平成28年の長野県鉱工業生産指数(季節調整済指数 H22=100 以下同じ)の推移をみると、1月は89.4だったが、その後徐々に上昇し、9月は94.5となっている。前年比を見ても、年初以来、前年を下回る月が多かったものの、8月以降は前年を上回っている。そうした中、図表にはないが、食料品工業(ウェイト1268.4/10,000)などでは、年初以来前年比プラスになっている月が多い。

はん用・生産用・業務用機械工業(ウェイト1731.8/10,000)、情報通信機械工業(ウェイト1171.7/10,000)、電子部品・デバイス工業(ウェイト1622.4/10,000)などで年初からマイナスに寄与していた月が多かったが、7、8月頃から寄与度がプラスとなった月が多くなっている。

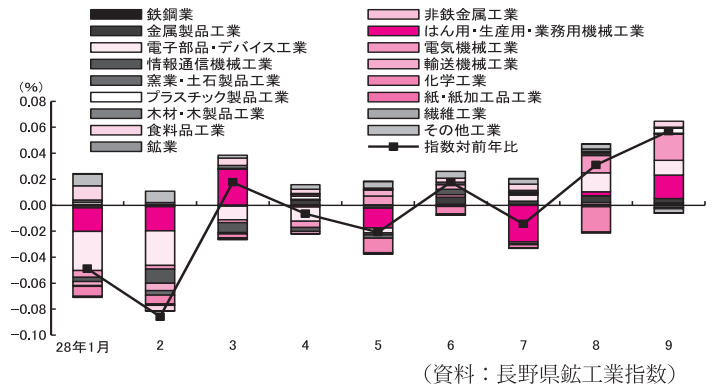
資料：長野県企画局情報政策課

※平成28年の9月は速報値、8月以前は確報値を使用。
ただし、今後年間補正等により改定されることがある。

長野県鉱工業生産指数(季節調整済指数 H22=100)の推移



長野県鉱工業生産指数(季節調整済指数 H22=100)上昇率 品目別寄与度



飯伊地区の県、市町村工事入札額

平成28年10月現在の、当地区における県、市町村の、発注者別入札額の累計は、概ね前年度並みで、一昨年度よりやや減少している。

10月現在、県の発注工事入札額累計が一昨年度、前年度をやや下回っており、発注の動きが若干鈍いようにも思われる。反対に、町村計は一昨年度、前年度をやや上回っている。

発注者別入札額の累計

(単位：百万円)

年度 月	県			飯 田 市		町 村 計			県、飯田市、町村計			
	H26	H27	H28	H26	H28	H26	H27	H28	H26	H27	H28	
4月	259	348	241	149	82	42	125	204	170	532	634	453
5月	911	471	314	519	261	450	463	531	1,335	1,893	1,263	2,099
6月	1,738	873	857	839	489	1,018	836	1,882	2,274	3,413	3,244	4,149
7月	2,446	1,369	1,516	1,952	1,123	1,357	2,327	2,401	2,624	6,725	4,893	5,497
8月	2,738	1,764	2,269	3,021	1,388	1,488	2,745	2,688	3,391	8,504	5,840	7,149
9月	4,146	2,876	3,727	3,177	1,621	1,831	3,413	3,351	3,679	10,736	7,847	9,237
10月	5,059	4,159	4,095	3,596	1,855	2,788	3,979	3,996	4,125	12,634	10,010	11,008
11月	5,533	5,661	-	3,694	2,058	-	4,700	4,280	-	13,928	12,000	-
12月	6,561	5,912	-	3,985	2,268	-	4,945	4,444	-	15,491	12,624	-
1月	7,353	6,376	-	4,096	2,370	-	5,088	4,712	-	16,537	13,458	-
2月	8,108	7,237	-	4,115	2,465	-	5,309	4,794	-	17,532	14,497	-
3月	8,472	7,538	-	4,197	2,778	-	5,521	4,946	-	18,189	15,262	-

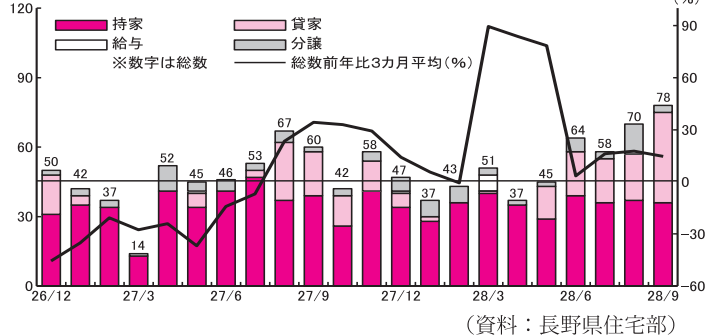
(資料：新建新聞「入札情報」抜粋)

飯伊地区の住宅着工戸数

住宅着工戸数(用途別)の推移を見ると、平成28年は、9月現在、持家316戸、貸家114戸、給与7戸、分譲46戸で、合計483戸。昨年は、9月時点で、持家321戸、貸家57戸、給与1戸、分譲37戸で、合計416戸だった。

9月時点で持家の着工戸数は昨年よりやや減少しているものの、今年に入って5月以降、貸家の着工戸数が増加していることもあって、総数は前年同月を上回っている。

飯田市・下伊那郡 住宅着工戸数の推移(用途別)



(資料：長野県住宅部)

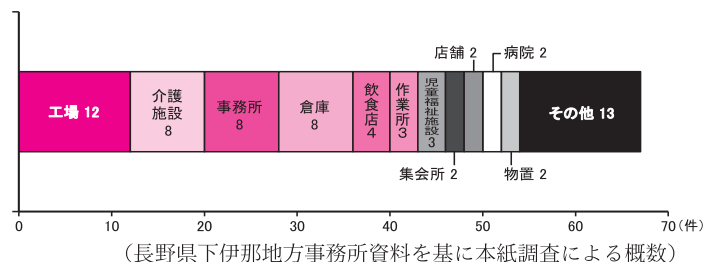
住宅、集合住宅以外の、用途別建築確認申請件数

(指定確認検査機関分を含む長野県下伊那地方事務所、本年4月1日以降受付分。本誌調査による概数)

平成28年4月1日以降に長野県下伊那地方事務所(指定確認検査機関分を含む)が受け付けた、用途を把握できる住宅、集合住宅以外の建築確認申請件数67件(11月21日現在)の内訳を見ると、工場が12件、介護施設8件、事務所(事務所、倉庫併用建物を含む)8件などとなっている。なお、「その他」には、寄宿舎、柿干場などが含まれる。

飯伊地区の住宅以外の用途別建築確認申請件数

(長野県下伊那地方事務所 4月1日以降受付分(11月21日現在))



(長野県下伊那地方事務所資料を基に本誌調査による概数)

自動車、軽自動車新規登録台数

平成28年の新車と中古車を合わせた自動車新規登録台数（松本自動車検査登録事務所管内）の累計は、10月現在、新車が23,595台、中古車が6,337台で、合計29,932台。昨年は、10月時点で、新車が25,595台、中古車が6,613台で、合計32,208台だった。本年の新車、中古車合計の対前年比3か月平均の推移を見ると、3月以降前年割れの月が続いている。

平成28年の新車と中古車を合わせた長野県全体の軽自動車新規登録台数累計は、9月現在、新車が34,999台、中古車が8,338台で、合計43,337台。昨年は、9月時点で、新車が39,597台、中古車が8,237台で、合計47,834台。平成27年1月以降の新車の登録台数の落ち込みが大きいこともあり、新車と中古車の合計の対前年比3か月平均も平成27年の年初以来前年割れが続いている。

倒産件数（負債総額1千万円以上）

平成28年の当地区の倒産件数は、11月までの累計で7件となっている。平成27年の1～11月の累計は11件だった。

なお、平成28年の当地区における倒産件数の業種別の内訳は、11月現在、製造業2件、販売業2件、建設業2件、運輸・サービス・その他の業種が1件となっている。

高速バス乗車人数

平成28年の高速バス乗車人数を、平成24年の各月を100とした指数で推移をみると、飯田～名古屋線では各月とも100を超えている。なお、飯田～名古屋線の指数は、平成26年1月以降連続して100を超えている。飯田～新宿線、飯田～長野線の同指数は、概ね95～106の範囲で推移したが、飯田～新宿線では1月が90.6、6月が93.7、8月が92.9などとなっていた。飯田～長野線では1月が93.8とやや低下していた。

中央道利用台数

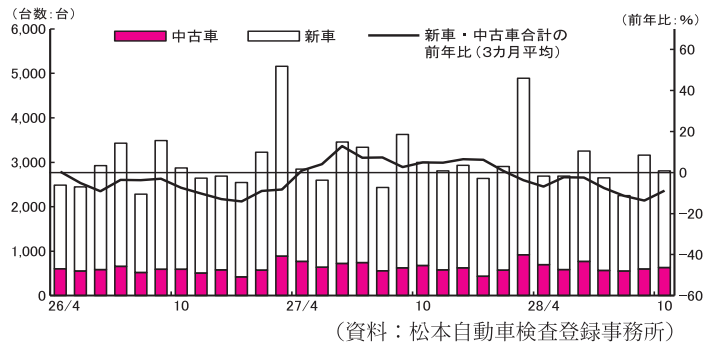
（飯伊地区4インターチェンジ出入合計）

平成28年の当地区4インターチェンジ利用台数の推移を、平成24年の各月を100とした指数の3か月平均で見ると、4インターチェンジ合計では、総じて平成24年の水準を下回っている。

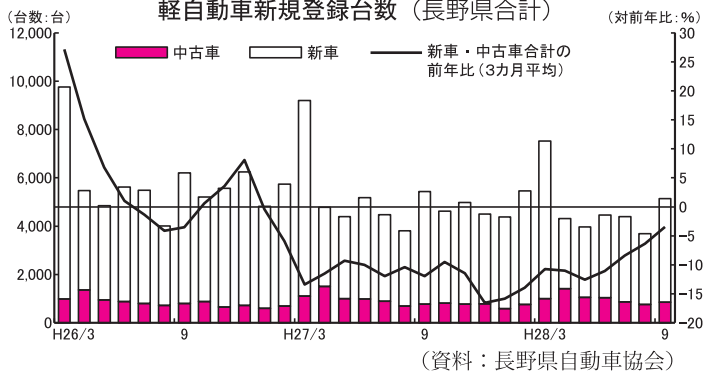
園原インターチェンジの利用台数は、平成27年3月以降、平成24年の水準を上回っている月が多く、本年4月には117となっている。また、山本インターチェンジでも平成27年3月以降、平成24年の水準を上回っている月が多い。

もっとも、平成28年1～10月の園原インターチェンジ、山本インターチェンジの利用台数の合計は1,169,722台で、平成27年1～10月の利用台数合計1,245,618台を6.1%下回っていた。

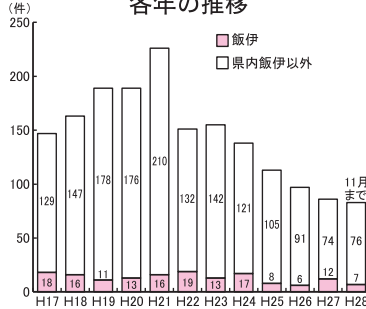
自動車新規登録台数（松本自動車検査登録事務所管内）



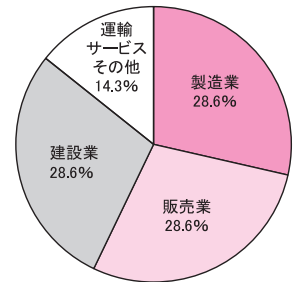
軽自動車新規登録台数（長野県合計）



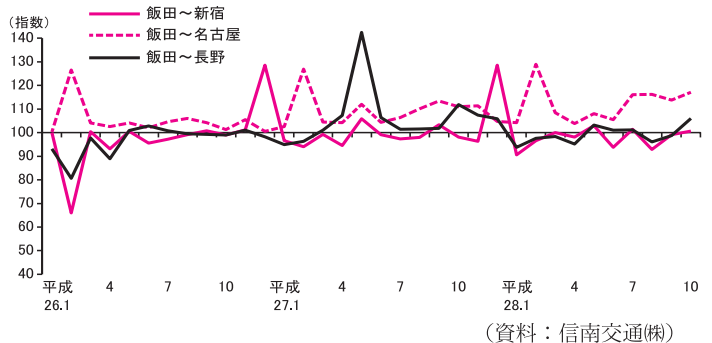
倒産件数（負債総額1千万円以上）各年の推移



H28飯伊地区倒産件数（業種別・11月現在）



高速バス乗車人数の推移（H24各月=100とした指数）



4インターチェンジ利用台数の推移（H24各月を100とした指数の3か月平均）

